

## 平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	4-1-4	5-4-2	事業名	国際園芸博覧会構想の検討
担当	市長政策室政策企画部企画課 浅村(2192)			
全 体 計 画				
事 業 内 容	<p>国際園芸博覧会(花博)について、テーマ・コンセプト、開催候補地、概算費用及び波及効果、開催時期等を中心とした基礎調査を実施し、開催誘致の是非を検討する。</p> <p>また、基礎調査の結果を踏まえて市民の意向を把握し、開催誘致の是非を決定する。</p> <p>(開催誘致を決定した場合)</p> <p>国際園芸家協会(AIPH)における誘致表明、府内組織・推進組織の設立、基本構想策定等を行う。</p>			
<b>&lt;年 度 別 の 事 業 内 容 &gt;</b>				
事 業 内 容 ・ 量 ・ 場 所 ・ 規 模 ・ 件 数 等	<p>《19年度》 基礎調査、府内検討会議</p> <p>《20年度》 市民意向の把握、誘致の是非を判断</p> <p>(開催誘致を決定した場合)</p> <p>府内推進組織の設置、AIPH・国等関係機関との調整</p>			
	<p>《21年度》 府内準備組織の設置、AIPHでの誘致表明、経済界・有識者・行政による推進組織の設置、基本構想策定開始</p>			
	<p>《22年度》 AIPHの承認、実施組織の設立準備、基本構想策定</p>			
	<b>平成19年度事業内容(決算)</b>			
事 業 内 容 ・ 量 ・ 場 所 ・ 規 模 ・ 件 数 等	<p>国際園芸博覧会(花博)構想について、その開催の是非を検討するため、今年度は下記の項目を中心とした基礎調査を実施する。また、有識者を含めた府内検討会議を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ・コンセプトの検討</li> <li>・開催候補地の検討</li> <li>・概算費用及び波及効果の検討(跡地利用を含む)</li> <li>・開催時期の検討</li> </ul>			
	<b>平成20年度事業内容(決算)</b>			
事 業 内 容 ・ 量 ・ 場 所 ・ 規 模 ・ 件 数 等	<p>国際園芸博覧会(花博)構想について、19年度に実施した基礎調査及び検討委員会の検討結果を踏まえ、追加調査を実施するとともに、市民アンケート調査を実施して市民の意向を把握した。</p>			
	<b>平成21年度事業内容(決算)</b>			
事 業 内 容 ・ 量 ・ 場 所 ・ 規 模 ・ 件 数 等	<p>19年度に実施した基礎調査、20年度に実施した追加調査およびアンケート調査の結果を踏まえ、調査内容を分析し、実施を断念する旨の判断をした。</p>			
	<b>平成22年度事業内容(予算)</b>			

## 平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	4-1-4	5-4-2	事業名	国際園芸博覧会構想の検討			
達成目標の状況							
項目		18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)
開催誘致の是非決定	-	-	-	決定			決定
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>■市民との連携、市民参加 広報さっぽろ2月号に、基礎調査・研究結果を特集記事として掲載するとともに、市民1万人アンケートを実施し、園芸博開催の是非などについて、市民意見を調査した。</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力] [人材協力]博覧会開催に係る追加的な調査・研究を札幌市立大学に委託した。 [情報協力] [その他の協力]</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり</p>							
評価(成果)	課題						
19年度に実施した基礎調査、20年度に実施した追加調査およびアンケート調査の結果を踏まえ、調査内容を分析し、実施を断念する旨の判断をした。	実施断念の決定後、大型イベント実施に関する経済界等の要望や花関係施策の実施に関する市民要望などがどの程度ありうるのかについて、見極めていくことが必要である。						
今後の事業の予定・方向							
把握した市民意見や要望のあった団体等の意見を踏まえ、今後の政策展開に反映させていくべき事項があるかどうか、引き続き検討する。							

様式イ

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

(単位:千円)